向陽高等学校研究推進部通信

QUEST FOR TRUTH

ー真理を求めて世界へ羽ばたけ

第１９号

平成 29 年

１０月６日発行

萌衣さんのアルゼンチン留学レポート

こんにちは！アルゼンチンに留学中の 3 年理数科の高久萌衣です！アルゼンチンに来て 2 ヶ月が経ちました！早いものですねぇ。アルゼンチンは南半球なので、今ちょうど夏に向かっています！私の住んでいる Jesus Maria は都会ほどではありませんが、向陽の周りほど田舎でもありません。強いて言うなら、向陽の周りと那覇を足して 2 で割ったぐらいです(^^)。私の留学は最初から波乱万丈でした。まず、飛行機の乗り換えが難しくて、アメリカ→アルゼンチンだったのですが、間違えてチリで降りてしまい、自分でホテルも新しいチケットも取らなければならないという災難にあいました^_^。でも、ここでチリの日本大使館の人のお世話になり、なんとか生き抜くことが出来ました。大変でしたが、チリにも友達が出来て、少し観光もできたので今ではいい思い出です！

そしてアルゼンチンについて他の国から来た留学生と合流して事前研修でした。その時にドイツ人やスウェーデン人は母国語があるにも関わらず英語がペラペラで驚きました。何故かと聞くと、映画などが翻訳されずそのまま上映されるため、いつの間にか身についていると言っていました。まだまだ日本の英語教育は甘いのだと痛感しました。

いよいよホストファミリーと合流し、最初は辞書片手に会話をしているのが精一杯でした。家族は 5 人家族で笑いの絶えないすごく楽しい家族です！2 ヶ月たった今では会話もそれなりに出来るようになり、家族の一員になれた気がして楽しいです！

学校は初日は緊張し過ぎてどうなるかと思いましたが、みんなすごく好奇心が旺盛で話しかけて来てくれたり、すぐに友達になれました。学校は制服があり、全校生徒は 1400 人とマンモス校です。最近、学芸会的なものがあり、各クラスが出し物(ダンスや劇、歌など)をしていて、私は留学生だからと日本語であなゆきの「ありのままの」をアカペラで 1 人で 1400 人の前で歌いました。心臓が口から飛び出るかと思いました。でもみんな暖かく見守ってくれて、この学芸会の後から友達の輪が一層広がり、今では学校でも、道端でも「めい！」って声掛けてくれるので本当にやってよかったと思います！もしかしたら向陽にいた時より友達が多いかも、、、、(笑)留学して今 1 番思ってる事は、「挑戦が大事！やってみると出来ないことってあんまりない」って事です！アルゼンチンに来てから人の前に立つ場面がより増えました。自分の意見を持つのはもちろんそれを人に伝え

萌衣さんが留学中のアルゼンチンってどんなとこ？

アルゼンチンの面積はは約 274 万平方キロメートルで、日本の約 7.4 倍と、非常に大きな国です。これだけ大きいということで、亜熱帯から南極に近い寒帯の気候まで、いろいろな自然環境を持っています。 ブエノスアイレスのまわりには、パンパという名前の大平原が広がります。ここでは、農業や牧畜業が盛んです。パンパの北には、グランチャゴという亜熱帯の台地が広がっています。南の方には、リオネグロの流れを境に、パタゴニアと呼ばれる乾燥した、冷涼な大地がが広がっています。１年中風が強く、農業にもあまり適さない土地ですので、広く牧畜が行われています。

人口、約４０００万人のうち、ブエノスアイレス市に、約３００万人、ブエノスアイレス首都圏に１０００万人以上と、全人口の３分の１ほどが、ブエノスアイレス周辺に住んでいます。他に、コルドバと、ロサリオが、１００万人を超えています。

アルゼンチン人の多くは、イタリア、ヨーロッパを中心にした、ヨーロッパ系の白色人種ですが、北西部（サルタ、フフイ州など）に、インカ系の民族、北東部（ミッショネス、フォルモサなど）に、グアラニー族など、それ以外の地域にも、アメリカ先住民族の人々が多く住んでいます。そして、ブエノスアイレス近郊とは違った魅力を感じることが出来ます。また、約３００００人の日系人も住んでいます。

アルゼンチンは、日本と１２時間の時差があります。ということは、日本が月曜日の朝７時なら、アルゼンチンは、まだ、日曜日の夜７時となります。南半球にあるということで、日本の夏８月は、アルゼンチンでは、冬になりますし、ここでは、クリスマスは、夏真っ盛りに行われます。日本だと北に向かえばだんだん寒くなりますが、ここは、北に向かえば亜熱帯のイグアスの滝がありますし、逆に南には、氷河の世界が存在します。